

2011-B					
拠出金・基金の名称:		国際稲研究所拠出金			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
拠出先の国際機関名: 国際農業研究協議グループ(CGIAR)/国際稲研究所(IRRI)					
【所管官庁担当局課・室名】: 農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】: 研究プロジェクトの実施					
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成23年度	31,374	353	-	1米ドル = 89円	100
平成22年度	38,540	410	-	1米ドル = 94円	100
平成21年度	55,020	534	-	1米ドル = 103円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 地球規模の気候変動など、農業生産環境が大きく変化する状況の下、食物の多くを輸入に頼る我が国が世界的な食料安全保障に貢献することは大きな課題である。IPCC第4次評価報告書によると、気候変動の拡大により、特に低緯度地域の途上国で農業生産性が大きく低下することが予想されている。 IRRIは、アジア地域をはじめ、世界の多くの地域の基礎食料となっている米の生産増大を目的として設立された非営利公益法人であり、従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施、節水栽培に適した品種改良、栽培技術開発等の成果が生まれている。稲の豊富な遺伝資源を有するIRRIは世界の稲研究の中心的な役割を果たしており、稲に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。 我が国は以下の2つの研究プロジェクトに対し拠出している。気候変動の影響を特に強く受けると予想されている低緯度途上国において、1)その栽培環境に適応した水稻品種と、我が国の開発した気象予測モデルを用いた栽培管理手法を開発し、それらを組み合わせ、小農が利用可能な水稻栽培システムの構築を目指すもの、及び、2)我が国が中心となって開発した測定手法を用いた現地圃場試験を通じて、世界の農業活動に由来する温室効果ガスの約8割を排出する途上国から温室効果ガス排出を削減するための具体的な技術の開発、そのマニュアル化及び一般化を目指すもの。 我が国としてもこれらのプログラムをはじめとしたIRRIの取り組みを高く評価し、人的貢献を含めて可能な協力を行いたい。 本プロジェクトは拠出にあたり研究計画書・予算計画書等についてプロジェクト開始前に事前に当方で確認し、最終的に承認をするプロセスを設けることにより、農林水産省としての意見が反映されている。					